

子どもと女性の健康相談室

68



福島医大小児科学講座助手
斎藤 康氏

二〇一七年四月に県内初の小児集中治療室（PICU）が福島医大付属病院に新設されました。PICUでは生命維持に

再建術、脳腫瘍切除などの脳神経外科手術といった大きな手術後の管理をしています。日本は一〜四歳の死亡率が他の先進国と比較し

これまで福島県では、このような重症な小児患者さんを各地域病院の一般病床や成人集中治療室のベッドを借りながら管理してまいりました。専用の

る血漿交換療法目的などが多くを占めています。現在、PICUには最大六人の患者さんが入室でき、四人の専従医師と二十七日の看護師が所属

ありません。福島医大小児科学講座では、専攻医である若手医師全員に対してPICU研修を必修としています。ここで小児救急・集中治療を学んだ後に、地域の二次医療機関（総合病院）小児科で勤務することは、県全体の小児医療の充実につながると考えています。

アをしています。例えば、人工呼吸管理、血液透析や血漿（けっしょう）交換療法といった

命守る最後のとりで

体外循環、中枢神経管理（けいれんのコントロール）などが必要とする場合です。その他に、腫瘍切除、肝移植、胃ろう造設などの小児外科手術、もやもや病に対する血行

て高いとされています。その要因の一つとしてPICUの不足が考えられており、ここで小児の重症患者さんを診療することで救命率が向上するという報告がされています。

ベッドで専従医師が中心となって管理できるようになったため、各地域病院からの重症患者さんの受け入れが容易になり、年間約四十人がPICUへ転院搬送されています。転院理由としては、

しております。その他に、疾患に関わる各診療科医師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士などの多職種が参入し、各専門性を集約して日々の診療に当たっています。

当院PICUは福島県の「小児医療の最後のとりで」としての役割を担っていると思います。患者さんがいち早く回復できるように医療を提供するとともに、患者さんとご家族の不安を取り除けるよう、スタッフが共同して対応していきます。

小児集中治療室

RSウイルスなどによる呼吸不全でんかん重積、急性脳症、川崎病に対する

大学病院に設置されているPICUは全国的に少なく、十施設ほどしか

次回は12月20日掲載